

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3391000019	
法人名	社会福祉法人 愛誠会	
事業所名	グループホーム心	
所在地	岡山県新見市唐松1749-2	
自己評価作成日	平成29年1月24日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=3391000019-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=">http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=3391000019-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成29年2月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員・利用者の方というかきねを取り払い、同じ空間を共有する生活者としての視点を忘れず、日々の関わりの中で、同じ景色・季節を感じながら、真剣に向き合う中でご利用者の心の声・思いを引き出し支援に繋げている。認知症が進行し失語の症状がある方が多い中で、その人の生きてこられた人生に思いをさせ、気持ちを推測したりくみとろうとする姿勢を大切にしている。ご家族の方に協力して頂きゆっくりと話しをする機会を作り、ご本人らしさについて共有しながらご本人を中心に支えあう関係づくりに努めている。どのような認知症の症状があっても、私達スタッフが心を傾けその人を理解しようと努め、自立支援・生きがいを創りだし広がりのあるケアを大切にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の代表者が職員を心から大切に思い、それぞれの個性を伸ばそうとするなら、職員は「ここで働き続けたい」と思うに違いない。何でも相談出来、信頼関係の絆が揺るがないホームでは、利用者や家族と職員の関係性も良いだろう。この連鎖を思い起こさせるのがこのGH・「心」である。ホームは十年を経た今、利用者の心身の問題に直面しているが、管理者・リーダー・職員が仲良く協力し合いながら難局を乗り越えようとしている。利用者は「一人ひとり違って、みんな良い」を地でいくような日々で、今日も、実に朗らかで楽しかった。私達も出合った瞬間から直ちに仲間に入れていただいた気分となり、嬉しい時を過ごした。大きな法人の輪の中で、GHとしての役割をきちんと果たしながら、「愛誠会」関連の多くの事業所と連携・協力を得て、利用者本人・家族に大きな安心をもたらしている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を共有してそれをふまえた上で、会議等で掘り下げて目標設定を行い、日々のケアへと繋げている。チームでだした目標については事務所に掲げ職員間で共有している。	今年度の目標「ご利用者の方の機能維持に努める」を事務所に掲示し、生活の中でのリハビリを重視して天気の良い日は極力散歩に出かける等、職員間で共有しながら日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各種団体と様々な形で交流が続いており、施設全体が地域住民の憩いの場、研修の場、イベントの場となっている。年に2・3回地域の方に来て頂き一緒に料理等行い交流を図っている。	法人併設の託児所の園児との交流会、合同イベントへの参加、地域の人とのおやつ作り等を通して日常的に交流をしており、地元の祭りへの参加や中学生との交流会にも参加する等、地域の中でしっかり根を張った活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア等取り組みについて、地域住民やご家族に対して実践報告会を、年2回開催し、ケア内容を公開するとともに、認知症に対するケア方法を還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問、意見、要望をうけ、課題を話し合いサービスの向上、地域の理解が得られるように取り組んでいる。	市の担当者、民生委員、地域の人、家族等が参加して定期的に会議を開催し、活動報告や情報交換、地域との交流の様子等が話し合われている。意見・要望は議事録に記載しているが、参加者からは地域全体の課題に対して市への要望が多く、グループホームに特化した意見・要望は少ない。	運営推進会議の記録からは、意見交換がなされている状況がよく理解出来るが、「グループホーム心」独自の問題点や課題についてホーム側からも提案し、話し合いや意見交換によってサービス向上に活かす取り組みを期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回、新見市高齢者支援課の職員に出席してもらって、各委員の情報共有や情報交換、地域との連携状況等市としての意見を求めている。	市が開催している多職種連携会議に参加して認知症ケアパスの普及や医療連携について等を話し合っている。日頃から何かあるとその都度相談し、適切な助言や指導をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで外出される利用者にはさりげなく声をかけたり、一緒に外出し安全面に配慮している。転倒のリスクがある方には見守り、家族にも予測されるリスクについてお伝えしている。	安全対策として玄関にセンサーを取り付けているが、落ち着いている人が多く、外に出て行き、探す状況になる人はいない。転倒リスクの高い人には居室にマットセンサーの設置をして転倒防止対策をしている例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待防止法などについて学び、理解できるようにしている。また職員の言動が心理的虐待にあたることがないように、禁止用語を貼りだし自分自身振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用された方が入所されているため、再度勉強会を開き職員が理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人の職員と管理者が、重要事項説明などを行っている。事業所でできること、できないことなどの説明や、不安に感じていることなどについても説明、納得を得ていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな事でもご家族の方に発信し、会話の中から思いなどくみとるようにしている。ご家族の方にゆっくり話しをして頂く機会を作り、ご本人についての想いをお聞きしながら、ご本人の想いを推測する手掛かりとしている。	毎年1回家族交流会を実施しており6組の家族の参加があった。今回は一緒に食事作りをして家族間の親睦と交流を図った。毎月、利用者の生活の様子や状況を手紙でお知らせしているが、面会時や必要に応じて電話等でも家族とよく話し合っている。	昨秋には第3回家族交流会を実施して、利用者とその家族、そして家族同士の交流の輪が確実に広がった。次の段階として家族同士がホームについて話し合ったり、ケアへの要望等話してもらえるチャンスを作ってみたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会、両立支援委員会において協議され提案された意見や改善点について、全体に周知するとともに幹部会議に提案し規則への反映等行っている。	職員間で情報共有しながら様々な課題や業務改善について意見交換をしている。法人の考えで障害者雇用法の改正に伴い、新規職員を採用する等、幅広い人材確保と常に職員にとって働きやすい環境を提供し、上層部にいつでも相談に乗ってもらえる体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職場内研修を年2回30講座程度企画し、実施している。さらにキャリアパス制度を就業規則において定め、職階と問われる能力、必要な資格及び給与への反映が明確に示されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初級、中級、上級別に研修を行い、それぞれのレベルに応じた指導・教育を行っている。日々のケアの中で、その都度認知症についての知識を伝え職員に考えてもらう機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に積極的に参加させると共に、法人内の他施設研修にも参加しながら、モチベーションとケア内容の向上を推進している。又、市で行われている医療連携会議には管理者が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でご自宅に伺い、ご本人が生活されている環境・生活歴を知ることが大切に行っている。なんでも話しやすいような関係性が築けるように、面接の時間をゆったりともうけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはいつでも気軽に施設に来て頂けるような関係作りに努めている。又、これまでの経緯などにしっかり耳を傾けながら、ご家族の想いをうけとめれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況等を確認しながら、利用開始までに何度か話しをする機会を作りながら、必要なサービスにつなげていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と共に行き、同じ時間を共有することを大切にしながら支援している。その中で、ご本人のできる能力を引き出したり、又より深く知りたいという思いをもちアセスメントを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の方の小さな変化など日頃の様子を細目に連絡したり、面会時等にゆっくりお話しする機会を作り、共通としてよりご本人への深い理解につなげ、想いを引き出せるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきたことや、馴染みの人等との関係が継続していけるように努めている。なじみの人との関係性については、手紙をだす機会を作る等支援している。	法人の別施設を利用している夫とお互いに行き来して交流しているご夫婦もいれば、家族がよく面会に来てくれる人もいます。法人全体のイベントでは知人や近所の人等に出会う事も多く、旧交を温めており、職員もそれぞれの馴染みの関係継続に向けて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が意図的に関わりながら、利用者同士で共に支えあえるような関係作りができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方についても、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境・支援の内容や注意が必要な点等について情報を提供し、連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人が言われる単語・表情から思いを感じ取れるよう努めている。失語の症状がある方が多い為、生活歴等の情報からご家族の方にも意見を頂き、想いを推測しうけとめるように努めている。	一人ひとりの状態を把握して、その人の視点に立ち、思いを感じる事を常に心がけ、個々に合わせたコミュニケーションについて職員全員で取り組んでいる。その人の記憶に繋がるキーワードを探して思いを引き出し、本人が安心して生活できるように努めている。	カンファレンスの記録の中に「言葉にならない気持ちや意向を受け止める為には」といった心理的面の考察が数例見られ、このホームの理念が伝わってきた。カンファレンスの事例をもっと具体的な言葉や状況に設定して議論すればさらにステップアップすると思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方などについて、プライバシーに配慮しながら、ご家族の方などからもより多くの情報をお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、その日によっても状態が違うため、日々細かい観察を行い見極めながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろよりご家族の方と連絡を密にし、日々の関わりの中からご家族・ご本人の要望を引き出せるようにしている。そして、課題を見出し話し合いをもち、それぞれの意見を反映したうえで介護計画書を作っている。	心身の情報(私の姿と気持ちシート)を見ても、身体面だけでなく心理面でも本人の願いや要望等6項目にわたりよく把握している。日々の利用者との会話や家族からの情報を基に、職員間でカンファレンスやモニタリングをしながらプランの作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況・小さな変化・ご本人の様子等について、個別的に記録を残すことで、職員間での情報の共有に努めている。その情報からケアの見直しを行ったり、介護計画書に反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援に対して、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、利用者の方が柔軟に活用でき、これまでとかわらずに地域生活者として生活が継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医へ毎月通院介助を行い、普段の様子や変化を伝えている。受診外でも体調変化などがある時にも連絡、相談を行い、体調面に配慮した早い対応に努めている。	それぞれのかかりつけ医には状態をよく把握している職員が受診に同行しているが、精神科等の専門医には現地で家族と合流する事もある。緊急時には特養の看護師を介して医療機関と連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士で判断できないような場合、唐松荘の看護師に相談し助言を受けることがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、認知症の方であるため気を付けてほしい事等細かいことを書面等で伝え連携を図っている。入院中にも病院に訪問して、関係職員から回復状況等情報の交換を行いながら、退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ該当者がいないが、ターミナルケアに関する指針に限り、可能な限り支援する方針である。	利用者の重度化が進み、ミニ特養のような形になってきており、現在、重度化した人が半数を占める。家族に状況説明をし、早い段階で終末期の有り方等を話し合っているが、特別な医療が必要でなく本人・家族が希望すれば出来る限り支援していこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や消防署の協力を得て救急手当や蘇生法の研修を実施し、事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月特養と合同による夜間を想定した避難訓練を行っている。又、今年は特養と一緒に水害を想定した訓練を行った。地元の消防団の方に協力して頂き、放水訓練を特養の方と合同で行った。	利用者も参加して夜間想定で定期的に避難訓練を実施している。運営推進会議では地域の人から「特養でも防災組織を立ち上げているが、その班編成はどうなっているのか、固定された人がいるのか」という質問もあった。災害や防犯対策についても協議している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの気持ちを大切に考え、自尊心を傷つけないような言葉かけ、その方の立場にたち配慮した対応を行っている。	事務所に「禁止用語「いけん・なんで・また」」を掲示し、否定・抑制・命令的な言葉を使わないように職員は常日頃から意識をしている。また、各居室にトイレと洗面所が設置されているので、排泄時のプライバシー確保や羞恥心への配慮が出来る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた選択肢を用意して、選びやすいような働きかけをしている。また意思表示が困難な方には、表情や反応を見ながら自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状況にあわせて、本人の気持ち・本人の生活のペースを大切にしてお対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を大切にさりげなく声をかけ支援している。行事や外出時にもお化粧やおしゃれが楽しめるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の体制の事やご利用の方が重度化され食事形態のほぼ半数がミキサー食になった事等より、特養の調理さんに作って頂いている。誕生日会等行事のある時には、ご利用の方と作り楽しい機会作りに繋げている。	ホームでの食事作りが少なくなったそうだが、今日は台所から美味しそうな匂いが漂い、大根おろしをしている人、皿に盛り付ける人、お味噌汁をお椀に入れている人等、それぞれにお手伝いをしていた。利用者と一緒に掘りごたつで話をしながら美味しくいただいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立をもとに栄養バランスは確保できている。食事量のチェックや、水分量の少ない方は好みの飲料を工夫している。食事の摂取量が少ない方、高カロリー食品等で補い栄養面に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケア(うがい、義歯洗浄、歯磨き)を行っている。毎日ポリドントによる義歯洗浄、うがいを行い口腔内を清潔に保ち嚥下障害の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した適切な声かけを行い、トイレでの排泄をそれぞれの方法で支援している。	自室のトイレを使用し排泄が自立している人は2名であり、排泄時の異変に気づき自分で症状を訴えて病気の早期発見につながった人もいる。大半の人は排泄リズムを見ながら職員が声かけ・誘導をし、夜間見守りが必要な人には家族の了解を得てセンサーを取り付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの消化機能の状態の把握、体操、ゲーム、散歩などの運動、飲食物の工夫を行い便秘予防、解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、入浴方法を決めている。ゆず湯など季節感を大切に、入浴を楽しんでいただける工夫をしている。重度化している現状であるため、安心して安全にケアに努めている。	基本は週2回としているが、本人の希望に合わせて臨機応変に対応している。重度化が進み、シャワー浴や足浴の人も増えてきたので、将来的には重度化に備え機械の導入も考えているところと聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に、その時々体調や状態に合わせて、ゆっくり休息したり気持ちよく眠れるよう支援している。不安・寂しさが大きい人にはできる限りそい寝をしたり、安心できるケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬について把握できるようにいつでもみれるようにファイルに情報をいれている。薬の変更があった時には必ず連絡簿に記入し、副作用について伝え変化を気をつけていけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じた役割を持っていたり、生活の中でご利用者の力が発揮できるように支援している。一人ひとりの趣味や好みを生かし、楽しく生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気分に応じて散歩や買い物等出かけている。又、季節を感じて頂けるような外出の機会や、ご家族の方に協力して頂き親戚の家や地域のなじみの方と会う機会作りに繋げている。	ホームのある法人の敷地内は広く、合同イベントに参加したり、長生き地藏様へのお参りも散歩を兼ねて良い気分転換になる。定期的に行っている特養の「レストラン銀座」での外食も楽しみの一つであり、仲の良い人同士でのドライブ・墓参り等の個別の外出支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で支払い管理できる方は、買い物の支払いを見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙が書ける方にはやり取りができるよう支援している。電話についても、遠くにおられるご家族の方の思いなどくみとりながら、用事がありかけてこられた時でも、ご本人と話しをする機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、季節感のある小物や飾りつけを行い、安心感の持てる雰囲気作りをしている。3人がけのソファやイスをいくつか配置し、思い思いの場所で居心地よく過ごせる工夫をしている。	リビングの外にあるウッドデッキは天気の良い日には茶話会の場所になり、日光浴・外気浴が気持ち良い。利用者は食事の下拵えの手伝い、ぬり絵、折り紙の作品作り等、自分の出来る事、好きな事をして思い思いに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の気分に合わせていろんな場所で過ごせるように、窓際に椅子を並べたり、一人になれる空間を作ったりしている。好きな所へ移動して過ごせれるような空間作りを努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族の希望に応じて、使い慣れた道具や家具を配置している。またご本人の生活に合わせ畳の居室にしたり、居心地の良い空間作りに努めできる限り在宅で生活していた環境作りに努めている。。	居室が広く、木目を基調とした色彩で障子窓といった風情が自宅にいるような雰囲気をかもし出していて、とても落ち着いた居心地の良さを感じる。仏壇・愛読書・ソファ等の馴染みの家具を持ち込みこれまでの生活習慣を大切にしている。各居室も清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごしていただくため、足元の障害になるようなものは置かないよう環境整備を行っている。視力の低下がみられる方もおられる為、その方の視点にたち安全面に配慮した環境作りに努めている。		